

安定した汚水処理の維持

汚水処理区域の整備

【課題】

市街化区域に点在する未整備地区や今後実施予定の区画整理事業地区などは、整備を進めるとともに、計画区域の見直し等を検討する必要があります。

【取組みの方向】

「秦野市総合計画(はだの2030プラン)」との整合や未整備地区の事業の進捗を考慮しながら、令和12年度の整備完了を目指します。

汚水整備を実施した区域においては、下水道未接続を解消し、新たに整備が必要となった宅地などについては、適時整備を実施します。

下水道マスコット
キャラクター
スイスイ



上 下 水 道 物 語



脱水した汚泥

脱水した汚泥は、肥料や建築資材として有効利用しています。

下水汚泥の有効利用

【課題】

現在行っている汚泥処分の経費削減の効果や設備の安定性などについて検証し、最も有効な取組みを検討する必要があります。

【取組みの方向】

現在の汚泥乾燥設備を利用し、汚泥の再資源化や経費の削減に取り組みながら、設備の信頼性や費用対効果を検証します。また、資源循環型社会の構築を目指し、下水道の資源の有効活用の研究を進めていきます。

効果的な浸水対策の推進

【課題】

これまで時間雨量50mmに対応するための雨水排水施設の整備を進めてきましたが、近年では時間雨量50mmを超える豪雨が発生しているため、総合的な浸水対策に取り組む必要があります。

【取組みの方向】

皆さんの安全・安心を守るため、時間雨量50mmを超える雨量に対して、ハード面とソフト面への対策を組み合わせた整備方針を策定し、民間の雨水調整施設などの活用も含めた総合的な浸水対策を実施していきます。



大根川ポンプ場(放水時)

鶴巻地区で発生していた浸水被害を軽減するため、平成24年度に供用を開始し、浸水被害対策に努めてきました。

維持管理の強化

管きよの予防保全型管理の推進

【課題】

汚水管きよは、管きよに問題が起こった時に調査や補修を行う事後保全型の維持管理を行っています。雨水管きよは、資産台帳の整備を行い、現状を正確に把握する必要があります。

【取組みの方向】

汚水管きよは、事後保全型から予防保全型の維持管理へと切替えを行い、更新や耐震化と合わせた取組みを戦略的に進めます。

雨水管きよは、幹線管きよ(緊急輸送路や鉄道横断などの主要な管きよや開きよ(上部に蓋がない水路))についての、資産台帳の整備を進め、更新や耐震化と合わせた取組みを進めていきます。

経済的で安心
安全な下水道
施設の維持管理
に努めています。



カメラを用いた管きよ内の破損等の調査の様子

施設の予防保全型管理の推進

【課題】

管きよと同様に事後保全型から予防保全型による維持管理への切替えが必要です。

【取組みの方向】

浄水管理センターなどの施設は、「秦野市公共下水道事業ストックマネジメント計画」に基づいて、適正な維持管理を行っていきます。

汚水・雨水マンホールポンプは、予防保全型の維持管理を行っていくため、計画の策定期間や内容について検討していきます。

効率的な施設整備

計画的な管きよの更新と整備

【課題】

汚水管きよは、比較的新しいため、これまでは更新の必要はありませんでしたが、整備後50年近くを経過する管きよが発生し始めているため、今後は更新費用が必要となります。

【取組みの方向】

予防保全型の維持管理を行い、可能な限りの長寿命化を図るため、調査の結果に基づき、老朽度の高いものから計画的・効率的に更新を進めていきます。

下水道施設は、故障や破損などにより、適切に稼働・機能しなければ汚水処理ができなくなり、生活環境に多大な影響を及ぼします。そのため、**計画的な施設整備を進め、生活環境の維持・向上に努めています。**



浄水管理センター
電気室

計画的な施設の更新と整備

【課題】

電気・機械設備の標準耐用年数は、10～15年前後と短いため、多くの設備の老朽化が進行しています。

【取組みの方向】

浄水管理センターなどの施設は、「秦野市公共下水道事業ストックマネジメント計画」に基づいて、更新を進めていきます。
汚水・雨水マンホールポンプは、市長部局と連携して、計画的に修繕や更新を行っていきます。

耐震化の推進

管きよの耐震化

【課題】

汚水管きよは、「秦野市下水道総合地震対策計画」に基づき、重要な管きよなどを中心に耐震化を実施していますが、耐震化率は重要な管きよの70.7%に留まっています。

雨水管きよは、新規で整備した管きよを除いて都市下水路で整備した雨水幹線などの耐震化は進んでいないため、資産台帳の整備を行う必要があります。

【取組みの方向】

汚水管きよは、老朽化対策と合わせて引き続き耐震化を実施するとともに、管きよの接続部の耐震性の向上にも努めていきます。

雨水管きよは、汚水管きよと同様に資産台帳の整備を実施したうえで、市長部局との適切な役割分担により、老朽化対策と合わせて耐震化を実施していきます。



耐震化工事の
作業の様子

震災時の防災拠点や避難所からの汚水管きよを中心に、管路の耐震化工事を行っています。

耐震補強工事では、耐震性能を有していないと判断された箇所の詳細な調査及び適切な施工方法を検討して工事を行っています。

浄水管理センターが適切に稼働し、安定した汚水処理を行えるように、計画的な耐震補強を進めています。



施設の耐震化

【課題】

浄水管理センターは、大規模地震が発生した場合に、持続的に簡易処理できるように、簡易処理に使用する施設を優先して耐震化を実施してきたため、そのほかの処理場施設についても耐震化を進める必要があります。

【取組みの方向】

「秦野市下水道総合地震対策計画」に基づいて、浄水管理センターの耐震化未実施の施設の耐震化を実施していきます。

経営の健全化

水洗化の普及促進

【課題】

平成30年度末までに、下水道の未接続世帯へ全戸訪問を行い、接続しない理由について調査したところ、接続の費用、家の建替え時期との調整などが主な理由でした。

下水道に接続することで、生活環境の改善や公共用水域の水質保全が実現されるため、速やかな接続工事の実施が求められます。

【取組みの方向】

水洗化の普及促進をより強化するため、今後は戦略的に個人や法人、地域の状況等を踏まえて訪問重点施設を定め、公共下水道の意義や排水設備の設置義務について丁寧に説明し、普及促進を進めていきます。

下水道は汚水管の整備完了後、地域のみなさま全員が下水道に接続することにより、水質保全などの効果を十分に発揮することが可能になります。**次世代のためにも水洗化の普及促進を強化していきます。**

